

人間探究領域
人間行動科学授業科目群

にっこのひろし
入戸野 宏 先生

担当授業：心理学B、脳と行動の科学、情報
処理心理学、行動科学基礎実験、行動科学統
計演習、行動科学実験・同実験法A C D



研究内容

実験心理学が専門です。実験によって人の心の仕組みを明らかにしようという学問ですが、中でも心理生理学というアプローチをとっています。具体的には、脳波や心拍数、顔の表情筋、皮膚の発汗など、生理学的な変化を測ることで、心の動きを調べています。

—人間の身体の反応でその人の心を測定するということですか。

そうですね。でも、身体や脳の活動を調べれば、心のすべてが分かるわけではないんだ。ある人がどう感じているかは、直接聞いてみたらいい。また、身体の中で起こっていることは、行動として外にあらわれてはじめて世界に影響を与える。そういうわけで、心理生理学では、主観・行動・生理という三つの側面から人間の心をとらえようとするんだ。

—先生は「かわいい」の研究をされていることと有名ですよ。実験的な心理生理学からどのように派生して「かわいい」の研究をすることになったのですか。

ある時、ゼミの三年生の女子学生がやって

きて言った。「自分はいかにも「ぬいぐるみとかふわふわしたもの」が好きなのですが、そういうことは研究できないでしょうか？」単なる思いつきで、学問らしくも科学らしくもないよね。でも、冷静に考えてみると、「かわいい」という言葉は、よく使われているわりに理解されていない。それを心理学でしっかり調べたら面白いかなと思ったのがきっかけかな。

—工学心理学のことも先生は専門的に研究されていると思うのですが、その研究に至った道のりなどを教えていただけませんか？

実験心理学の研究というのは、実験室の中でこぢんまりと行うテーマが多いんだ。例えばある刺激が出てきたらボタンを押してくださいとか、画面に提示される単語を記憶してくださいとか。厳密さを求めるなら、そういう研究にも意義がある。だけど、大学院生の時に、「こんなことをして日常を生きる人間の何がわかるんだろうか」と疑問を感じた。どうしたら研究が面白くなるかと本

をたくさん読み、試行錯誤していく中で、ヒトとモノの関係に行きあたったんだ。自分でモノを作るのが好きだったから、工学と心理学を結びつけた研究がこれから必要になると直感したんだね。

— どういったところが工学心理学の魅力と言えますか？

— どんな学問でも、専門以外の人にアピールするには、誰もが感じている疑問に答えられる研究をすることが大事だよ。工学心理学は、道具やシステムを安全で使いやすくするにはどうしたらいいかっていう問題意識からスタートした。それなりの成果をあげたから、今の私たちの便利な生活があるんだ。でも、モノを作るのは技術者の仕事であって、心理学者の仕事ではない。心理学者がこれから取り組まないといけないのは、そういう便利な道具ができることで人間はどう変わっていくのかという問いだと思う。使いやすいモノができてみんなが受け入れてくれたら、作った人は成功して大儲けできる。iPodやiPhone、LINE もそうだ。だけど、使う道

具が変わると、私たちの生活が変わる。生活が変わるということは、心や行動が変わるということなんだ。いい面も悪い面もあるけど、そういうことを、売れるか売れないかは関係なく、データに基づいて理論的に研究し、未来を予測する学問がこれからの時代には必要になる。それが、僕の考える「新しい工学心理学」なんだ。

日本のアニメやマンガ

— 日本のアニメやマンガのキャラクターが「かわいい」ということで世界でも有名になっていと思うんですが、それはどうしてでしょうか。

— 「かわいい」の研究を始めてから分かったのだけど、日本人が思っているほど、世界は日本の「かわいい」に関心がないというのが現実なんだ。日本人は、かわいいものが好きだから、世界の人も同じ気持ちだろうと思っっているけど、そんなことはない。例えば、海外でもコスプレやローリータファッションを好む人がいるって話を時々聞く。僕も何年前に、イタリアの鉄道の中で、そういう人た

ちを見かけた。でも、日本でコスプレをやっている人が少ないのと同じで、レアなケースなんだよね。アニメに関していえば、「かわいい」ということは別に、よい作品はお話としてファンタジーとして優れているし、丁寧に作られている。そういう点を受け入れられることもあるだろうね。

学生時代

— 学生時代は本を読むのが好きだった。初めは哲学者になろうと思っていたけど、「自分でなにか新しいものを作りたい」という思いが強くて、三年生の時に脳波を測定できる研究室に入った。「人間とはなにか」を言葉で考えるより、自分で実験をして「人間はこういう状況ではこんなふうに行動する」とデータを出すほうが性に合っていたんだね。

— 文系とか理系とかいうけど、実験心理学はその中間にある。大事なのは、論理的に考えられるかということ。それは文系だろうと理系だろうと関係ないよね。

総科生に一言

自分の考えを発信できる「知の生産者」になってほしいと思う。例えば、読書。本を読む人は、本を消費する人だ。「面白かったね」で終わるのではなく、それに何かをつけくわえて再発信できたら、生産者になれる。今はインターネットが発達しているから、ブログやツイッターで自分の考えを発信するのが容易になっている。でも、ただ発信すればいいってわけでもない。それでは、ただの目立ちたがり屋だ。本当の生産者は、どうしたら消費者が喜んでくれるかをよく考えている。人が喜んでくれるものを発信するには、次の三つが必要だ。(一)新しい知識や発想、(二)それを文章やイメージでしっかりと人に伝えるスキル、(三)そうしようと思うサービス精神。大学ではこれを意識して身につけてほしいな。

【担当】 25生 上江洲 まどか

25生 島田 優太郎

25生 丸本 千枝

25生 三山 まりこ



西条のおすすめの店*Boulangerie LAPIN(ラパン)
寺家のフランスパン屋

おすすめの本*『仕事は楽しいかね』
デイル・ドーテン

趣味*特にない。
強いて言えば、研究で人を喜ばせること。

座右の銘*人は才能の前には頭を下げないが、
努力の前には頭を下げる。

